

NEW EDUCATION AND TRADITION



スローガン：つなく伝統 築こう未来

発行日：令和8年3月2日(月)

発行者：校長 吉岡 大司

「有終の美を飾る」

校長 吉岡 大司

朝晩は、未だ冷えることが多いですが、日中は、だいぶ暖かくなり、この寒い暖かいを繰り返すことで、三寒四温の季節となりました。いよいよ！季節は、春に向かいます

日本には、物事の終わり方を大切にするとところがあり、この時期にふさわしい日本語として、美しい表現がたくさんあります。その中には「終わり良ければ全てよし」「立つ鳥跡を濁さず」「有終の美を飾る」「残り姿」などがあります。

さて、2月12日(木)～14日(土)文化祭作品展示の部の学校公開は、いかがでしたでしょうか。多くの保護者の方が来校し、観覧していただき、感謝申し上げます。

令和7年度の締めくくりにあつさわしい生徒たちの展示は、まさに「有終の美を飾る」そのものだったのではないのでしょうか。全校朝礼で、「有終の美」と「残り姿」を話しました。

「有終の美を飾る」とは「最後まで物事をやりとげ、しっかりと締めくくる」という意味です。「飾る」とは、そこに美しさ、立派さを添えることを意味しています。

また、2月の初めに、桜堤中として、何年かぶりに、2年生が、会津高杖スキー場へ行きましたが、それに続き、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが始まり、選手の活躍やオリンピック出場までの長い道のりや努力と練習の積み重ね等々、一人ひとりに物語があり、そして、悲喜交々の結果もあり、様々な思いをもちながら、テレビの前で応援をしていた方も多くいらっしゃったのではないかと思います。

ところで、気付けば、3年生と共に過ごす時間は、残すところ12日となりました。

思い起こせば、3年前私が、本校に赴任した際の生徒たちの第一印象は「さわやかな挨拶のできる、素晴らしい生徒たち」でした。現在、その3年生が、校内外においても明るく元気な挨拶を率先し、後輩に模範を示してくれていることに感謝しています。

また、この一年間、生徒会活動や学校行事で後輩をリードし、多くの功績を残してくれました。卒業までの残り、どのような雄姿を後輩たちに見せてくれるのでしょうか。

そして、これまで支えてくださった家族をはじめとする多くの方々に感謝の気持ちを持ち、仲間や後輩、先生方と一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。そして、第13代目の卒業生としてしっかりと歴史を刻み、最高の姿で母校を巣立ってください。

さらに、2年生は、4月には最上級生、そして本校の顔となります。1年生は、後輩ができ中堅学年となります。残りの後期を最高の姿で締めくくるとともに、先輩からのバトンをしっかり引き継ぎ、4月からの「桜堤中学校」を最高の姿でスタートする心がまえを持ち、準備をしてください。少し早いですが、この一年間、ご理解とご協力をいただきました保護者並びに地域の皆様に、衷心より感謝申し上げます。

引き続き保護者の皆様のあたたかいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。